



倉敷東中

十二月十四日(火)、東中の体育館で人権集会を行いました。今年度は、ユニツト名、喜楽童Toshi & 七海さん(小島敏弘、七海(ご夫妻)を講師としてお招きしました。

お二人は、「みんなでひとついのちを大切に」という演題で、『生きる』ことの大前提、『命』の大切さについて語ってくださいました。珍しい民俗楽器を演奏しながら歌われた音空間は、われわれに深い癒しをもたらしました。

温かいまちづくり



第 21 号

事務局	発行
倉敷市浜町二丁目三〇番	東中学区
TEL・FAX 四二五・七七七四	人権学習推進委員会
	平成二十三年二月二十八日発行



万寿東小

十二月二十二日(水)に「もちつき会」を行いました。開会式では、全校での「もちつきうた」の合唱や、五年生が考えたもち米クイズをしました。保護者や地域の方々が前日より準備をしてくださり、一人ひとり順番にきねを持ち元気いっぴいのかげ声の中もちつきをしました。

この日のもち米は、五年生が作ったものです。子どもたちは、たくさんの方の心のこもったおもちを美味しく一口一口味わって食べていました。高学年が、低・中学年の世話をしながら楽しく活動することができた一日でした。

倉敷東幼

11月19日(金)に、倉敷東幼稚園同窓会の行事として、ライフパーク倉敷科学センターの吉原先生が科学実験の出前講座に来てくださりました。当日は未就園児の子どもたちと一緒に参加して、不思議な手品を見せてもらったり、ストローでロケットを作ったりして楽しい時間を過ごすことができました。同窓会の方々に優しくかかわってもらったり、未就園の子どもたちと一緒に遊んだりする中で、さまざまなふれあい体験をすることができました。

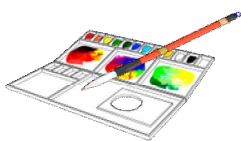
万寿東幼

12月8日(水)に餅つき会をしました。冬とは思えないよい天気にも恵まれた中で、地域の方々や小学校の校長先生たちと一緒に楽しい時間を過ごしました。

園児たちの「そーれ！よいしょ！」の掛け声に合わせてお餅をついてくださり、園児たちはつきたてのお餅を自分たちで丸めて、おいしくいただきました。

お餅を食べてパワーがでたら、今度はお餅つきに挑戦！重いきねを持ち上げながら、ぺったんぺったんとつくことができました。

人と人が出会い、ふれあって、お互いの温かさを感じることで心と心も通い合います。東中学区人権学習推進委員会では「であい・ふれあい」を大切に、人権のまちづくりを進めています。



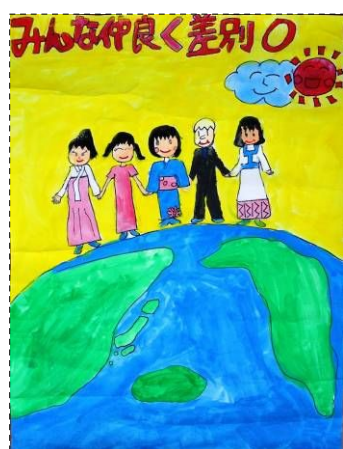
平成22年度 人権ポスター・標語作品



50点の出展ありがとうございました。全作品を12月10日の世界人権デーまで倉敷東公民館に展示しました。



倉敷西小学校 5年
高橋 理瑚さん



倉敷東小学校 5年
小林 さくらさん



万寿東小学校 6年
丸川 歩梨さん

なかよくすれば
えがおがふえる

万寿小学校 2年
小川 璃乙さん

傷つく一言 消えませぬ
優しい一言 忘れませぬ

東中学校 2年
山本 さちあさん

第2回人権教育講演会 「びっくり！健康玉手箱」



十月三日(日)、竹内康弘先生をお迎えして第二回人権教育講演会を開催しました。

東中学校区人権学習推進委員会の「新しいテーマ」が決まりました。

声をかけ、支えあう 人が大切にされる町づくり

たくさんのご応募ありがとうございました。審査の結果、次のとおり受賞者を選考し、最優秀賞を新しいテーマとすることに決定しました。

- 最優秀賞(1点) 門田 栄二さん
「声をかけ、支えあう、人が大切にされる町づくり」
- 優秀賞(2点) 渡辺 美由紀さん・出宮 教治さん

今後、新しいテーマのもと東中学校区人権学習推進事業を進めてまいりますので、みなさまのご協力よろしくお願いいたします。

第62回全国人権・同和教育研究大会に参加して



大会テーマ『しりたい！やってみよう！つながりたい！(誰もが生まれてきてよかったと思える社会の実現をめざして)』のもと、十一月二十日～二十一日の二日間、佐賀県(佐賀市、唐津市、武雄市の三市)

で分散開催された第62回全国人権・同和教育研究大会に倉敷市関係者三十名の一員として唐津会場の第四分科会(人権確立をめざす人づくり・組織づくり)と第五分科会(人権確立をめざすまちづくり)に参加させていただきました。唐津会場ではさらに六か所に分かれて多数の研究発表がなされました。私が聴講出来たのは、そのごく一部に過ぎませんが、この大会に参加しての率直な感想を書いてみたいと思います。

最初に、同和地区出身者の被差別体験談や教育現場の体験談を聞いて、この問題の根の深さを実感する一方、歴史的な背景を考えればこの解決のためにはさうかというの世代が必要なのだろうかというの率直な思いです。

? ハンセン病って……!

かつては「らい病」と呼ばれ、遺伝病と信じられていました。1873年ノルウェーの医師アルマウェル・ハンセンによって「らい菌」が発見され現在は彼の名をとって「ハンセン病」と呼ばれています。感染すると末梢神経がおかされ、知覚麻痺がおこり、温度や痛みを感じなくなります。その結果、やけどやケガを繰り返し手や顔面が変形する後遺症が残ることから、偏見や差別の対象になりやすかったのです。有効な治療薬がない時代は「不治の病」といわれていましたが、1943年アメリカで「プロミン」がハンセン病に劇的な治療効果を持つことが確認され、日本では第2次世界大戦後治療に導入されました。現在では、いくつかの飲み薬を組み合わせる多剤併用療法が行われ、ハンセン病は確実に治癒する病気となっています。

参考資料:岡山県発行「ハンセン病のこと正しく知っていますか?」

人権学習推進委員会研修視察

『長島愛生園(瀬戸内市)』を訪ねて



八月十九日(木)猛暑のなか、瀬戸内市のハンセン病国立療養所『長島愛生園』に西中学校区人権学習推進委



員会と合同で研修視察に行きました。行きのバスの中でDVD「未来への虹」を視聴し、知識を深めながら一路愛生園へ。到着後、まず歴史館で学芸員さんからハンセン病の歴史、現在の状況などの説明を受けました。そして館内を見学したのち、当時の面影を残す収容桟橋・収容所跡や納骨堂を案内していただきました。

午後からは、入所者自治会長さんから、入所したときの思い出、苦しかった愛生園での過酷な労働など、国の誤った隔離政策による偏見や差別などについて体験をもとにした貴重な講話をお聞きすることができました。私たちは、ハンセン病について正しく理解し、それを周りの人に伝え、偏見や差別をなくしていくことが必要であると強く思いました。



(歴史館内で説明を受ける参加者)

《参加者の感想から》

◆ハンセン病を取り巻く問題については漠然としか知らなかった。「今はハンセン病患者はいない。後遺症に苦しむ方々がいるだけだ。ほかの障がいがある人と同じように接してほしい。」という言葉に当事者の方々の受けた傷の深さを感じました。

◆一つ一つ身近なところからさまざまな問題を見つけ、解決していく必要があると考えさせられた一日でした。

《参加者の感想から》

先生は、先天性緑内障のため生まれながらの視覚障がい者となられましたが、現在は鍼灸所を営むかたわら健康コンサルタントとして実践予防医学の普及活動を行われています。お話の中で、先生を出産したお母さんに助産婦さんが「世の中で障がい者として生まれてきても、生きる(幸せになる)権利が与えられるのは人間だけなのよ……!」とかけられた言葉が心に残りました。

◆目標に向かって生活しておられるのがひしひしと伝わってきました。障がい克服して一を十に変えての生き方がすばらしいと感じました。

◆幼少時代から現在に至るまでの体験を楽しくお話していただきプラス思考で生活しておられることにとっても感動しました。薬の怖さも教えていただき参考になりました。